

令和3年度 定例県議会 知事提案事項説明要旨〔抜粋〕

令和3年6月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

国土交通省鉄道局との「幅広い協議」については、5月31日に第4回の協議を行いました。この「幅広い協議」は、昨年6月に協議に入る際、鉄道局とは5つの方式について予断を持たずに幅広く協議することで一致しており、これまでの3回の協議では双方の立場で真摯な議論を行ってまいりました。そうした状況の中で、5月26日に開催された与党検討委員会の会合において、「佐賀駅を通るルートによるフル規格での整備」に絞った検討の方向性が示されたことに強い違和感を覚えました。このため、フル規格を実現するための協議ではないこと、また、佐賀県の合意がない限り事業化に向けた手続きを行わないことについて、改めて鉄道局の考えを確認した上で協議を行いました。佐賀県は、5つの方式について幅広く協議することとしており、フル規格について協議する場合には、ルートを含めてゼロベースから議論すべきと考えています。ルートについても、佐賀駅を通るルートだけではなく、佐賀空港を通るルート、佐賀市の北部を通るルートなど、県内にも様々な意見があります。このため、これら3つのルートについて、それぞれどのようなメリット・デメリットがあるのかということについて、鉄道局としての考えを示していただくよう求めました。また、フリーゲージトレインについても、博多 - 長崎間に安全性が確保された速度で車両を走行させるなど、様々な可能性について引き続き議論していくことを求めました。新鳥栖 - 武雄温泉間のあり方は、佐賀県の将来に大きく影響するため、今後、何が望ましい姿なのかということ、大きな視点をもって幅広く、骨太に議

論してまいります。

また、来年秋の武雄温泉 - 長崎間の開業により、特急列車が大幅に減ることになる鹿島や太良などの長崎本線沿線地域の振興に力を注いでまいります。肥前鹿島駅周辺は、市民や高校生が行き交い、隣接するバスセンターは嬉野や太良方面とを結ぶなど県南西部の玄関口です。鹿島市では現在、肥前鹿島駅周辺整備構想の策定作業が進められています。県では「K I Z U K Iプロジェクト」の中で、鹿島市と一緒にあって鹿島の魅力と価値を活かした「鹿島らしい」構想となるよう議論を重ねており、まちの賑わいと長崎本線沿線地域の振興につながるよう、支援してまいります。

令和3年9月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

令和4年秋に、武雄温泉 - 長崎間が開業します。開業を好機と捉え、地域の魅力を磨き上げ、発信することで、人を惹きつけるそこにしかない地域づくりにつながるよう取り組んでまいります。また、西九州ルートの開業により、特急列車が大幅に減ることになる鹿島や太良などの長崎本線沿線地域については、鹿島市において、県も一緒にあって市民と議論してきた「肥前鹿島駅周辺整備構想」の案が7月末に策定されるなど、駅も活かしながら、豊かな自然、脈々と受け継がれてきた歴史や文化といった地域の魅力を感じてもらえるまちづくりが始まろうとしています。引き続き、K I Z U K Iプロジェクトでの議論も重ねながら、地域の人たちの思いが詰まったまちづくりを後押しするなど、長崎本線沿線地域の振興に力を注いでまいります。

国土交通省鉄道局との「幅広い協議」については、5月31日に第4回の協議

を行い、改めて、5つの方式について幅広く協議していくことを確認し、フル規格について協議する場合には、ルートを含めゼロベースから議論することとしております。次回の協議について鉄道局に確認したところ、現在、議論に必要な試算などの検討を行っており、まだ時間がかかるということでした。新鳥栖 - 武雄温泉間の在り方は佐賀県の将来に大きく影響することであり、今後も何が望ましい姿なのかということを中心に大きな視点を持って幅広く、骨太に議論してまいります。

令和3年11月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

国土交通省鉄道局との「幅広い協議」については、11月22日に第5回の協議を半年ぶりに行いました。前回の協議では、在来線の利便性低下を懸念していることを伝えるとともに、フル規格で整備する場合の3つのルートについて、将来を見据え、佐賀県はもとより九州の発展にどのようにつながっていくのかなど、国土交通省としての考えを示すよう求めていました。しかし、今回の協議では、そのような視点からの説明はなく、議論が深まることにはなりません。新鳥栖 - 武雄温泉間のあり方は、佐賀県の将来に大きく影響するため、今後も、何が望ましい姿なのかということを中心に大きな視点を持って幅広く、骨太に議論してまいります。

また、来年秋の武雄温泉 - 長崎間の開業により、特急列車が大幅に減ることになる鹿島や太良などの長崎本線沿線地域の振興に力を注いでまいります。鹿島市においては「肥前鹿島駅周辺整備構想」が策定されるなど、地域の魅力を感じてもらえるまちづくりが始まろうとしており、そうした取組を県としてしっかり

りと後押ししてまいります。

令和4年2月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

この秋、いよいよ武雄温泉 - 長崎間が開業します。開業を好機と捉え、県内の各地域で、多くの人々が訪れてみたい、住んでみたいと思う、人を惹きつける魅力を磨き上げる取組が進んでいます。県では、こうした地域づくりをしっかりと後押しするとともに、観光誘客、移住促進と一体的に取り組んでまいります。県内各地域に息づく文化や歴史、伝統、そこにしかない魅力を発信することで周遊を促し、新幹線が停車する武雄や嬉野だけでなく、県全域に開業効果を波及させられるよう取り組んでまいります。

また、武雄温泉 - 長崎間の開業により、特急列車が大幅に減ることになる鹿島や太良などの長崎本線沿線地域の振興に力を注いでまいります。鹿島市においては、県も一緒になって市民と議論してきた「肥前鹿島駅周辺整備全体構想」が昨年11月に策定され、地域の人たちの思いの詰まったまちづくりが始まっています。「KIZUKIプロジェクト」の中で今後の基本計画策定にも主体的に参画するとともに、構想の核となる駅舎やロータリー等について、今回駅舎も県の所有となることを機に県が整備を行い、構想の推進を後押ししてまいります。引き続き、鹿島らしさが感じられる魅力あるまちづくりを県も一体となって進めてまいります。

国土交通省鉄道局との「幅広い協議」については、2月10日に第6回の協議を行いました。これまでの協議で、鉄道局から対面乗換が恒久的に続くことで利用者の利便性が損なわれるという意見があったため、乗換を解消したいのであ

れば、フリーゲージトレインを安全性が確保された速度で走行させることも選択肢になるのではないかと提案していました。今回の協議では、時速200km程度のフリーゲージトレインの開発について、時速270kmの車両の開発に関するこれまでの説明と同様に、技術的な課題や導入効果を理由に開発は困難であるという説明に終始し、新たな話はありませんでした。鉄道局とはフル規格やフリーゲージトレインを含めた5つの方式について幅広く協議することとしています。今後も真摯に協議に向き合い、何が望ましい姿なのかということ、大きな視点を持って幅広く、骨太に議論してまいります。